

しま 地域だより

5
月号

サザンクリーンセンター推進協議会



現在の轟泉



資料提供：豊見城市教育委員会文化課

湧水 カニ
地域の井

トッドウルチガー 轟泉

所在地/豊見城市字高嶺在



トッドウルチガー（轟泉）は豊見城市字高嶺、県道7号線沿いにある。手すりなど一部が整備されているものの、ほぼ原型をとどめており、昔と変わらない大木が現在も井泉を見守るかのよう生い茂っている。以前のトッドウルチガーは水質がよかつたため、洗いや水浴びなど村人たちの貴重な生活用水として大変重宝されていた。加えて、干ばつの年などは近隣の村からも水を汲みにくるほど水量も豊富であった。また、島尻方面から那覇や首里への旧街道はトッドウルチガーの側を通っていたため、往来する人々にも頻繁に利用され、井泉は常に賑わいを見せていたという。

現在では周囲において開発が行なわれてきたために、以前に比べると水量が減ってきているそうだが、今なお、水中には小さな魚が多数確認できる。しかし、水面や井泉の周囲にはゴミの放置が目立つ。古くから人々の生活を支えてきた由緒ある井泉だけに、今に生きる私たちがきちんとした

形で後世に伝えていかなければならないのではないだろうか。水を大切に扱ってきた先人たちの思い、そしてそれをはぐくんだのがこのトッドウルチガーだということ...

循環型ごみ処理施設

「サザンクリーンセンター」の建設へ

年内に候補地を決定！



新会長古堅國雄(与那原町長)

南部地区廃棄物処理施設整備推進協議会(南廃協)から糸満市が離脱、同協議会が3月末で解散したことを受け、南部地区にごみ処理施設を建設する新組織「サザンクリーンセンター推進協議会」(豊見城市、南城市、八重瀬町、与那原町、西原町の2市3町で構成)が17日、発足した。

同日の午後2時より八重瀬町の南部総合福祉センターで

開かれた設立総会にて協議会の会則、事業計画、19年度の予算案などの議案が協議され、いずれも理事の全会一致で原案通り可決された。

新役員の選任では、会長に古堅國雄と与那原町長、副会長に古謝景春南城市長、神谷信吉八重瀬町議会議長がそれぞれ選任された。

同協議会は7月までに各専門部会において施設建設選定部会(第1部会)による先進地視察、広域化研究部会(第4部会)での施設広域のあり方などの検討を行い、8月の理事会でごみ処理方式を決定する予定。その後、各種団体及び地域住民への事業説明を行い、第1部会が候補地選定作業に入る。それらの作業を踏まえて、今年度12月中にも新たな施設の建設候補地を決定する予定となる。



設立総会の様子(八重瀬町東風平の南部総合福祉センター)

南部における広域のごみ処理施設建設では、これまでに旧玉城村富山地区、糸満市の大度地区の建設候補地が近隣地区などの反対を受け二度の頓挫をしている。

これを受けて総会では「焼却残渣等を他地区に委託処理している南部のごみ処理の状況は喫緊に解決すべき問題である。構成5市町はこの問題に早急に対処し、議会、行政、地域住民が一丸となってこの危機的状況にあるごみ問題を打開するため、『自らのごみは自らの地域で処理する』ごみ処理の原理原則に則り、真の循環型社会の構築に向け、早期に広域的施設の建設に向けて果敢に取り組む」ことを宣言し構成5市町の議会で採択して行くことの確認も行った。

古堅会長は「住民に不安を与えるのではなく、地域のシンボルとなるような施設を造りたい。行政側、住民側とも互いに理解を深め建設に向けて前進していきたい」と決意を述べた。

サザンクリーンセンター
推進協議会新役員

会長 古堅 國雄（与那原町長）
副会長 古謝 景春（南城市長）
副会長 神谷 信吉（八重瀬町議会議長）
監事 神谷 明德（八重瀬町収入役）
親泊 輝延（西原町収入役）
（任期：平成19年4月1日～平成21年3月31日）

サザンクリーンセンター推進協議会予算書

(歳入)		(千円)	
款	項	金額	説明
1. 諸収入		31,405	
	1. 預金利子	1	預金利子
	2. 雑入	31,404	南勝協よりの剰余金充当 13,404 南部広域行政組合より事務運営委託料 18,000
計		31,405	

(歳出)		(千円)			
款	項	金額	区分	金額	説明
1. 推進対策費		26,917			
	1. 推進対策費	26,917			
			1. 報酬	3,972	役員、住民代表
			4. 共済費	49	
			9. 旅費	10,652	調査・研修費
			11. 需用費	4,845	印刷製本費
			12. 役務費	1,171	郵送料
			13. 委託料	3,500	広報誌制作事務委託料
			14. 使用料及び賃借料	2,678	自動車借り上げ、事務機リース料
			18. 備品購入費	50	図書購入費
2. 予備費		4,488			
				4,488	
計		31,405		31,405	

平成19年度サザンクリーンセンター推進協議会事業計画

時期	内容	備考
H19年4月	サザンクリーンセンター推進協議会設立総会	
4月～7月	専門部会の開催 ・施設建設選定部会（第1部会） ・広域化研究部会（第4部会）	ごみ処理方式の検討 施設広域の検討
8月	・理事会	処理方式の決定
9月	・事業説明	各市町議会、地域住民 各種団体、その他
9月～11月	・施設建設選定部会（第1部会）	候補地選定作業
12月	・理事会	候補地の決定
H20年1月～2月	・地域振興部会（第2部会）	地域振興策の検討
3月	・事業説明	各市町議会、地域住民 各種団体、その他

※正副会長会議並びに関係市町長協議会は、必要に応じ開催する。

宣言文

環境問題に積極的に取り組む我が国において、県内のごみ処理問題、とりわけ焼却残渣等を他地区に委託処理している南部のごみ処理の状況は喫緊に解決すべき問題である。

これを解決するために6市町で立ち上げた「南勝協」であったが、H18・12・6糸満市の離脱の意思表示があり、翌年3・31の組織解散となった。

ごみ処理の基本理念である焼却から最終処分まで「自らのごみは自らの地域で処理する」という廃棄物処理の基本原則を大きく逸脱し、きわめて憂慮される深刻な事態である。

一刻の猶予も許されないごみ問題、特に東部清掃施設、島尻清掃施設、糸・豊清掃施設組合から出る豊見城市分の焼却残渣を処理するごみ処理施設の建設について、豊見城市、南城市、八重瀬町、与那原町、西原町の5市町はこの問題に早急に対処し、全身全霊を傾け解決を図らなければならない。

私たちはこれまでのごみ行政のあり方を真摯に反省し、5市町の議会、行政、地域住民が一丸となって、この危機的状況にある「ごみ問題」を打開するため、「自らのごみは自らの地域で処理する」ごみ処理の原理原則に則り、真の循環型社会の構築に向け、早期に広域的施設の建設に向けて果敢に取り組む。

以上、宣言する。
サザンクリーンセンター推進協議会
平成19年4月17日

**環境
美化**

**わたしたちの
取り組み**



与那原町
まちづくり
推進協議会

与那原町マリタウンまちづくり推進協議会では東浜地内公共道路における植樹樹の管理者を決めて美化運動を行っている。

10月に開通予定の県道糸満与那原線、翌月には大型商業用地「あがり浜ショッピングセンター(仮称)」がオープン予定と、めまぐるしく変化する環境の中にあって地域の美化運動を通してつながりを大切にしている。

植樹はアカバナやフウリンブソウゲ、シャリンバイなど。また、5月と11月の年2回には商工部の婦人会、地域の少年団などに協力を呼びかけて200名規模の大規模な除草作業も行っているという。この日の作業では鮮やかに色づいた花々を話題に楽しく作業を行った。



3月25日(日)にマリタウン内の清掃を行う協議会のみなさん。

サザンクリーンセンター推進協議会部会名簿

第1部会 施設建設選定部会

・処理方法及び候補地の選定に関すること

役職名	備考
1	豊見城市副市長
2	南城市副市長
3	八重瀬町副町長
4	与那原町副町長
5	西原町副町長
6	住民代表 豊見城市
7	住民代表 豊見城市
8	住民代表 南城市
9	住民代表 南城市
10	住民代表 八重瀬町
11	住民代表 八重瀬町
12	住民代表 与那原町
13	住民代表 与那原町
14	住民代表 西原町
15	住民代表 西原町

第2部会 地域振興部会

・施設建設に係る振興策に関する
こと

役職名	
1	豊見城市市民福祉部参事監
2	豊見城市生活環境課長
3	南城市市民福祉部長
4	南城市生活環境課長
5	八重瀬町環境保健課長
6	与那原町まちづくり課
7	西原町健康衛生課長

第3部会 ごみ処理研究部会

・循環型社会の推進に関すること

役職名	
1	豊見城市生活環境課生活環境係長
2	南城市生活環境課主事
3	八重瀬町環境保健課主事
4	与那原町まちづくり課課長補佐
5	西原町健康衛生課環境保全係長
6	島尻消防清掃組合衛生課長
7	東部清掃施設組合係長
8	住民代表
9	住民代表
10	住民代表
11	住民代表
12	住民代表
13	住民代表

第4部会 広域化研究部会

・広域的な施設整備に関する
こと

役職名	
1	豊見城市市民福祉部参事監
2	豊見城市生活環境課長
3	島尻消防清掃組合事務局長
4	島尻消防清掃組合長
5	東部清掃施設組合事務局長
6	東部清掃施設組合係長

発行所
サザンクリーンセンター
推進協議会会長 古堅國雄

住所
〒901-0401 島尻郡八重瀬町
字東風平965番地

電話
098(998)8857

FAX
098(998)9420

▼5市町によるごみ処理施設整備推進協議会の名称が「サザンクリーンセンター」に決まった。直訳すると「本島南のきれいな施設」となり、以前の名称よりも遙かに親しみを感じるようになった。繰り返された「過去の反省を踏まえて」という部分が発足の段階から実感できる。

設立総会では建設への取り組みに向けての宣言文が読み上げられ、並々ならぬ覚悟を感じさせた。席上、ある首長は「不転の決意だ。命をかけてでもこの問題を解決するつもりである」と発言した。前述通り、過去の反省を財産として「同じ轍は踏まぬ」と決して低くはないハードルを乗り越えていけるよう取り組んでいきたい。

(名)

事務局だより

ごみ問題について気になることがある。技術の革新における施設の先進性には驚かされるが、どれほど技術が進歩しても住民側の理解と協力がなければ、ゼロエミッションの循環型社会へ転換は望むべくもないということだ。「一人一人の意識改革」新しい組織でも根本的な考え方は変わらない。